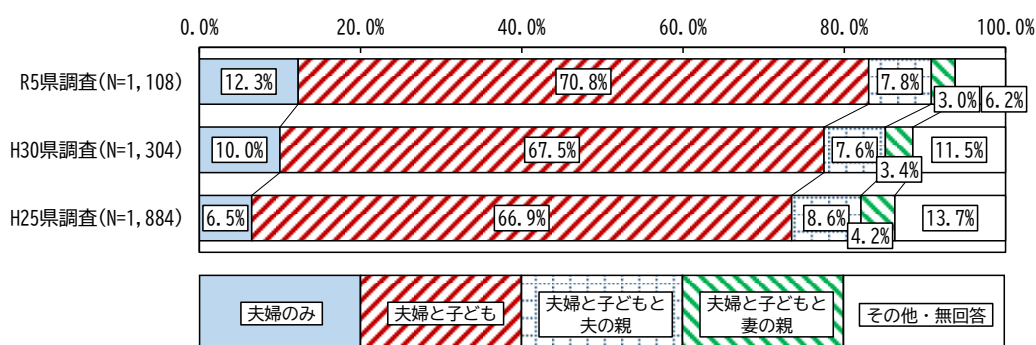


1 夫婦の世帯構成

○ 結婚後の夫婦の家族構成は約8割が核家族である。過去調査から夫婦のみの世帯の割合が増加している。

[参考：奈良県の核家族世帯割合] 62.5% (R2 国勢調査結果・分母に単独世帯含む)

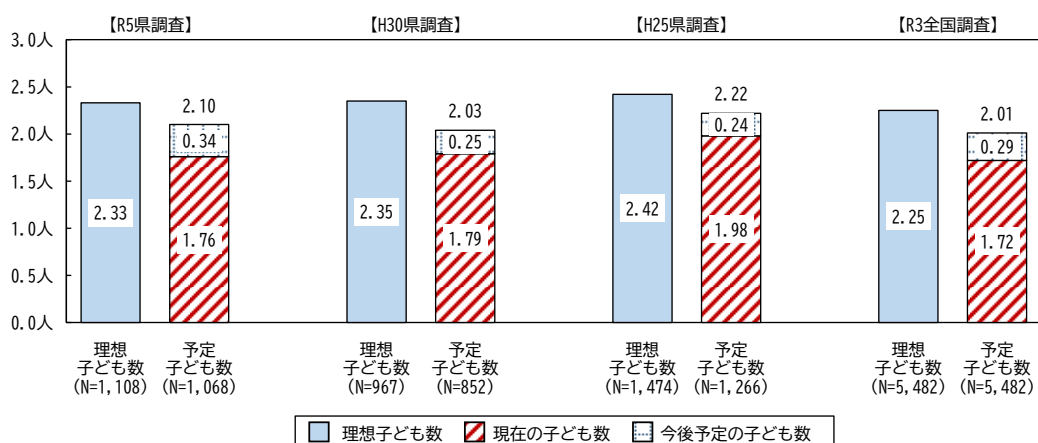
【図表 夫婦調査の家族構成】



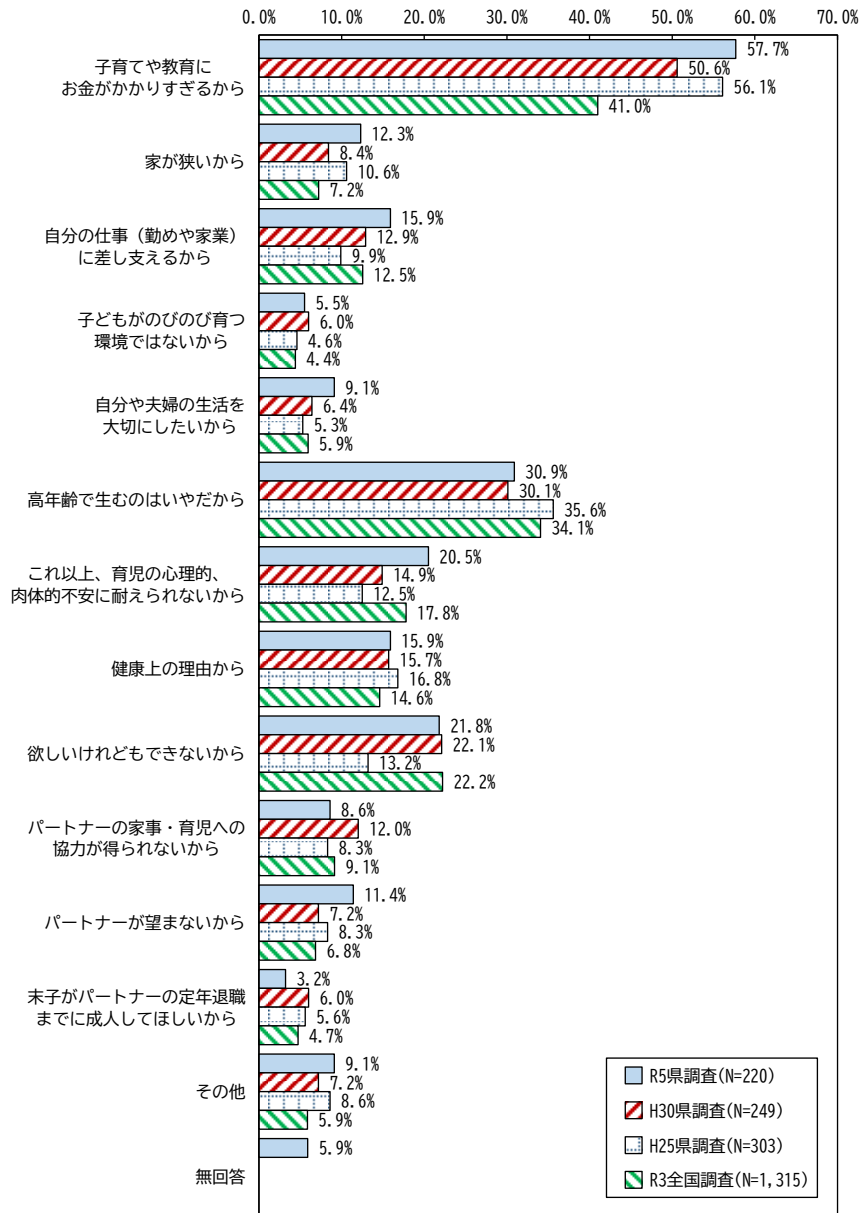
2 子どもの数

- 理想の子どもの人数の平均は 2.33 人に対し、予定している子どもの数の平均は 2.10 人。理想と予定の差は 0.23 人と前回調査から縮まっているものの理想の子どもの数はゆるやかに減少。
- 理想の子どもを持たない理由の一位は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」で、その要因は塾や習い事を含めた教育費である。正規職・自営業の世帯でも夫婦ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が理由の上位となっており、共働きによる経済的優位がうかがえない。

【図表 理想・予定・現在の子どもの平均人数】



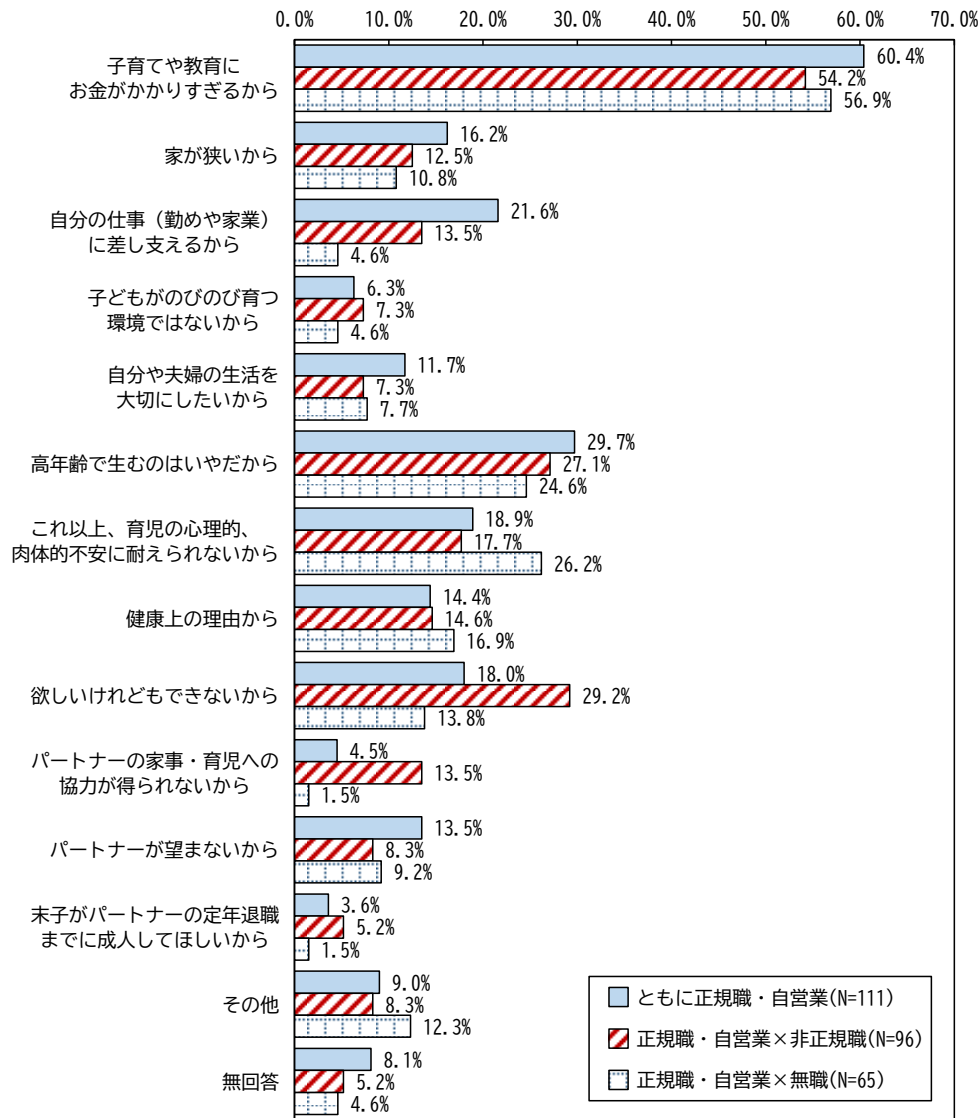
図表 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由（複数回答）（初婚同士）



※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では「パートナー」ではなく「夫」であった

※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では無回答の掲載なし

図表 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由（複数回答）



3 子育ての負担感

- 6歳未満の子どもがいる家庭の子育てへの身体的・経済的な不安感・負担感は男女ともに上昇傾向。男性においては精神的な不安感も増している。

[参考：身体的・体力的な負担感] R5 夫 54.2% (前回比較+16.4pt) 妻 58.1% (前回比較+3.9pt)
 [参考：心理的・精神的な負担感] R5 夫 53.4% (前回比較+14.4pt) 妻 47.9% (前回比較-1.9pt)
 [参考：金銭的・経済的な負担感] R5 夫 77.1% (前回比較+19.8pt) 妻 69.0% (前回比較+12.4pt)

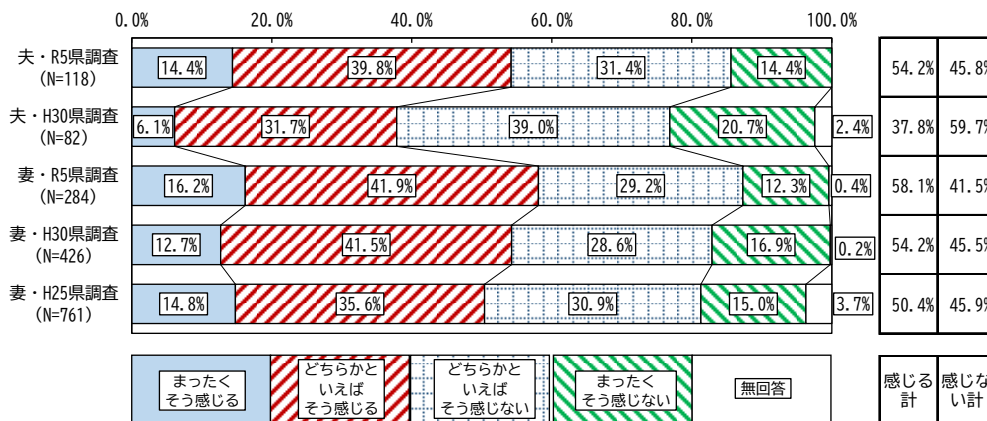
- 子育てにおける身体的な負担は妻の割合が夫に比べて高く、精神的・経済的な負担は夫の割合が妻に比べて高いなど夫婦間に負担感のギャップが生じている。

[参考：身体的・体力的な負担感 男女差 (夫-妻)] R5 感じる計-3.9pt 感じない計+4.3pt
 [参考：心理的・精神的な負担感 男女差 (夫-妻)] R5 感じる計+5.5pt 感じない計-5.1pt
 [参考：金銭的・経済的な負担感 男女差 (夫-妻)] R5 感じる計+8.1pt 感じない計-7.9pt

- 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因は「大学教育にかかる費用」「塾や習い事にかかる費用」「高等学校教育にかかる費用」など教育費が上位。前回調査から「出産にかかる費用」「衣食住にかかる費用」の割合が上昇している。

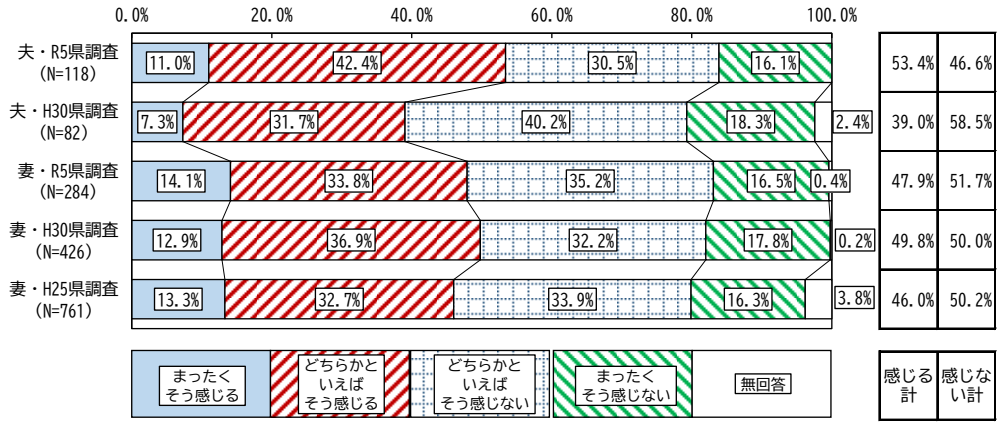
- 夫婦ともに子育てにおける不安点は「子どもの成長や健康への悩みや不安」「出産や育児に費用がかかりすぎる」が上位。夫は「しつけの仕方がわからない」、妻は「自分の自由な時間がない」への不安が比較的高い。

図表 身体的・体力的な不安感・負担感 (6歳未満の子どもがいる家庭)



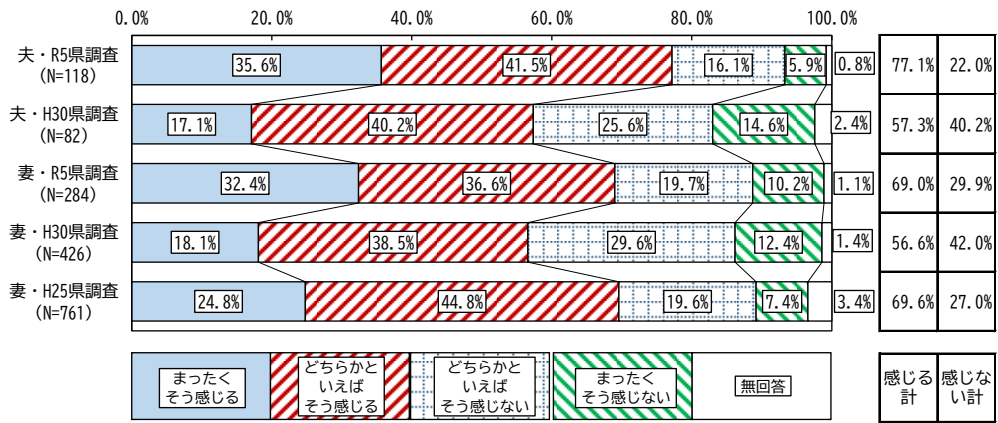
※H25 県調査の調査対象は妻のみ

図表 心理的・精神的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



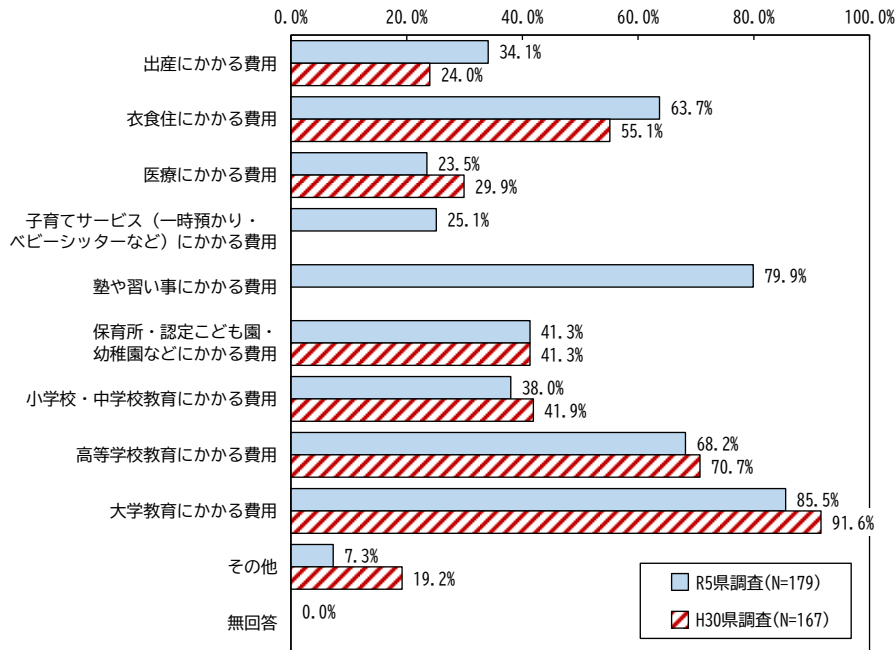
※H25 県調査の調査対象は妻のみ

図表 金銭的・経済的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



※H25 県調査の調査対象は妻のみ

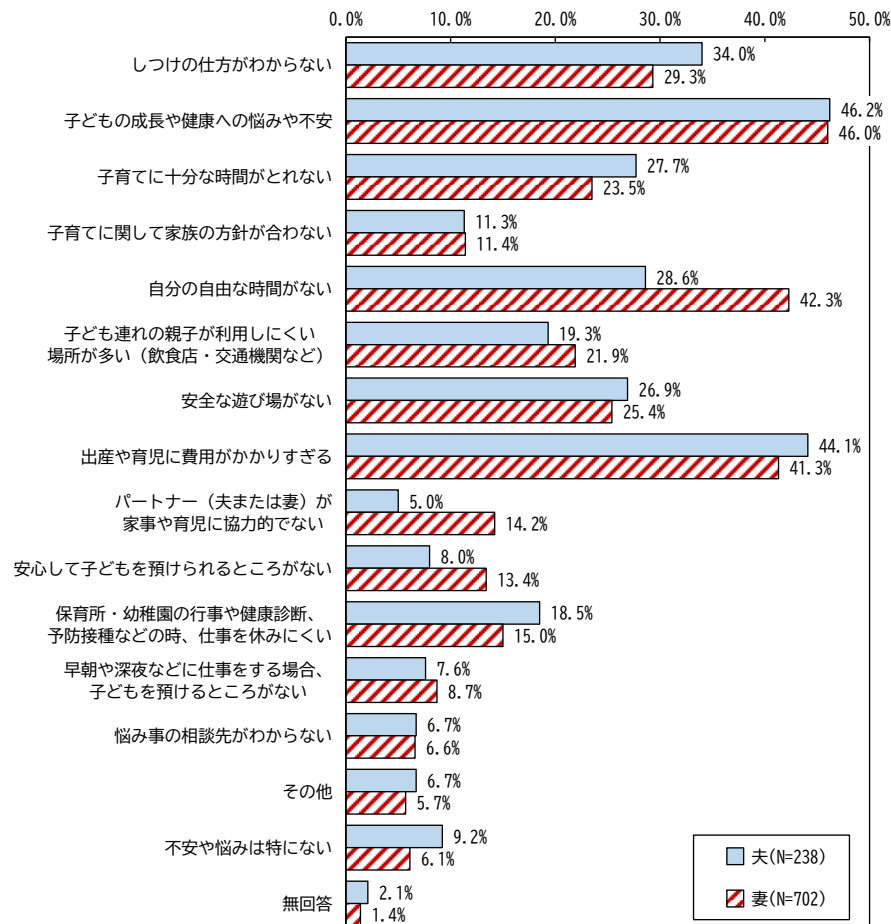
図表 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因



※「子育てサービス（一時預かり・ベビーシッターなど）にかかる費用」「塾や習い事にかかる費用」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査では無回答の掲載なし

図表 子育てに関する不安や悩み



4 夫婦の子育て

- 6歳未満の子どもがいる家庭の子育てに関する一体感は夫婦ともに9割弱で H30 県調査から上昇している。ただし、「まったくそう感じる」割合は男性のほうが 11.9 ポイント高くなっており、夫が感じているほど妻は一体感を感じられていない。

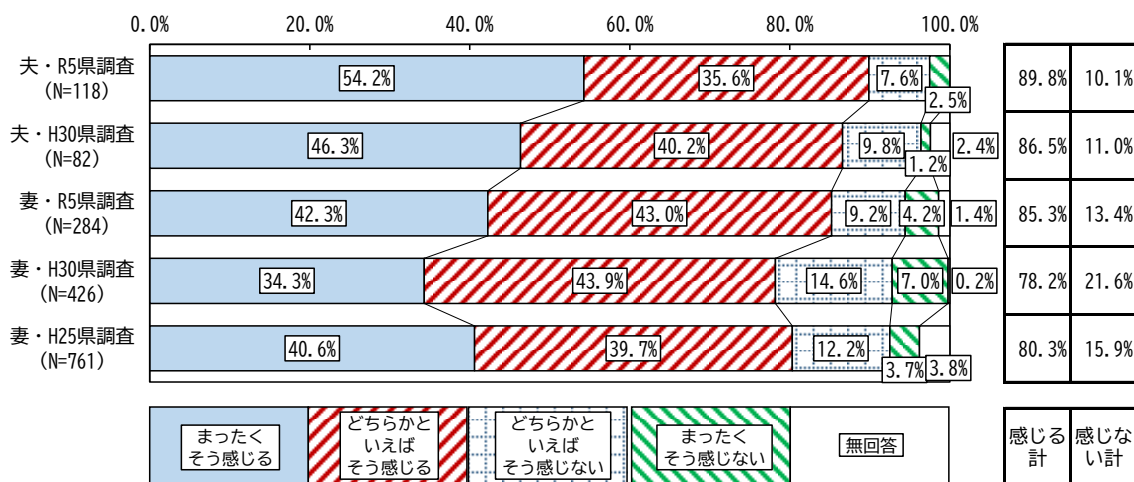
[参考：子育てに関する一体感]

R5 夫 感じる計 89.8% (前回比較+3.3pt) まったくそう感じる 54.2% (前回比較+7.9pt)

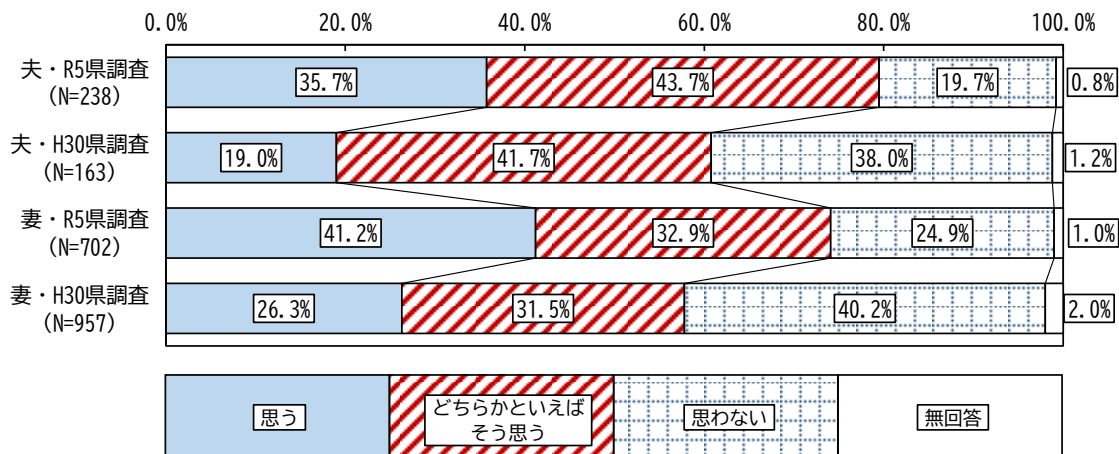
R5 妻 感じる計 85.3% (前回比較+7.1pt) まったくそう感じる 42.3% (前回比較+8.0pt)

- 育児・家事を積極的にする男性だと思う割合が夫婦ともに前回調査の2割前後から4割前後まで上昇。
- 夫が育児に関わらない理由は、夫婦ともに「仕事が忙しいから」が挙げられるが、妻は「夫が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから」「関心がないから」など夫の意識も主要な理由としている。
- 独身者においては「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事をもたず家にいるのが望ましい」について肯定的な割合は男女ともに大きく低下しているものの5割となっており依然根強い意識がある。

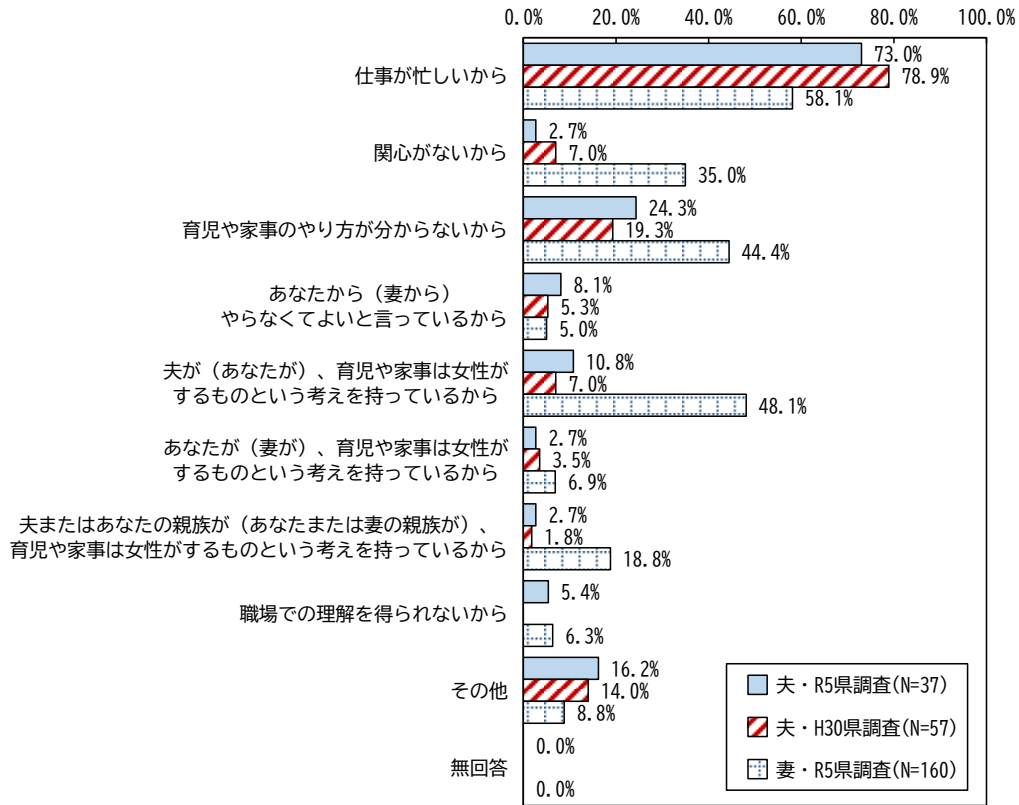
図表 パートナーとの子育て一体感（6歳未満の子どもがいる家庭）



図表 育児・家事を積極的にする男性だと思うか



図表 夫が育児・家事に関わらない理由

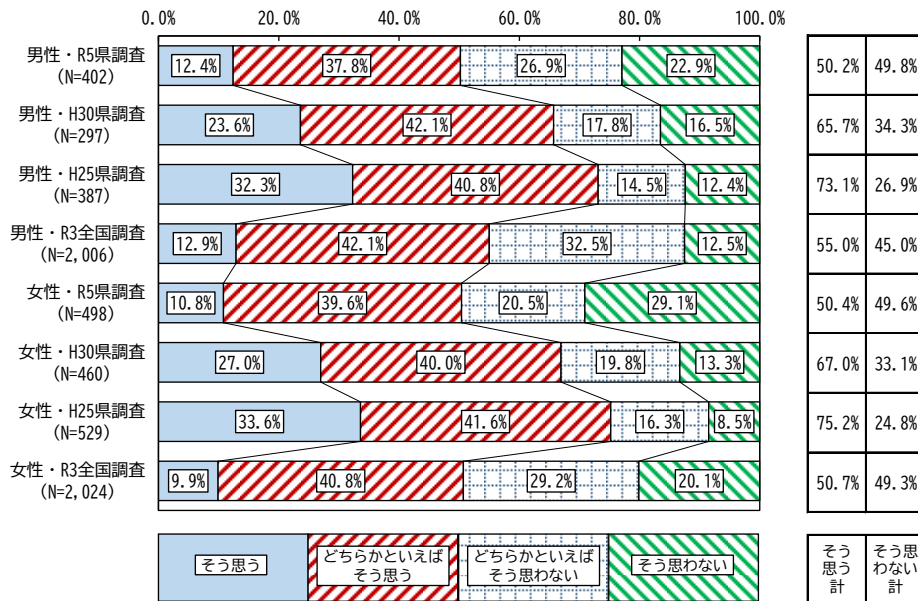


※ () 内は夫側の理由

※H30 県調査では夫のみに聴取。また、無回答の掲載なし

※「職場の理解を得られないから」は今回調査からの新規項目

図表 独身者の結婚観：少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

5 夫婦の就労状況

- 学校卒業後から現在まで妻の就労している割合は約9割から約7割へ低下している。

[参考：就労状況]

R5 夫 学校卒業直後の就労率 91.9%→現在 91.9% (比較+0.0pt)

妻 学校卒業直後の就労率 91.5%→現在 75.1% (比較-16.4pt)

- ただし、前回調査と比較すると妻の現在就労している割合や正規職員の割合は前回調査より上昇しており、第一子出産を機に退職した割合も 5.6 ポイント低下するなど変化がみられる。

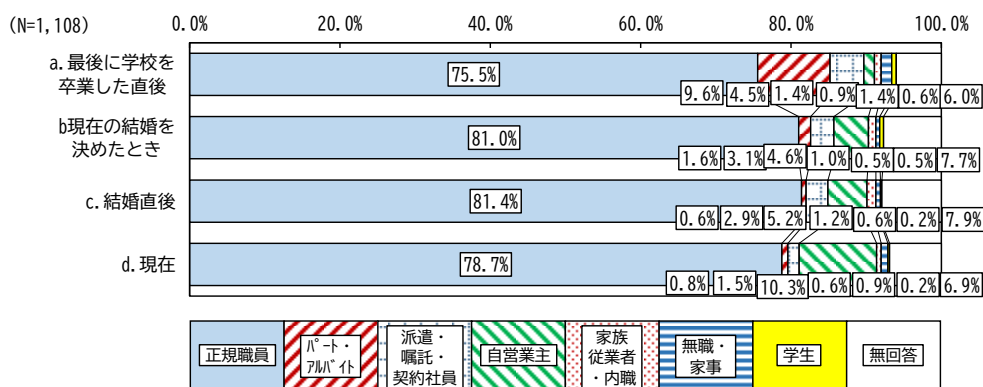
[参考：就労状況]

R5 夫 就労率 91.9% (前回比較+0.8pt) 正規職員 78.7% (前回比較+0.5pt)

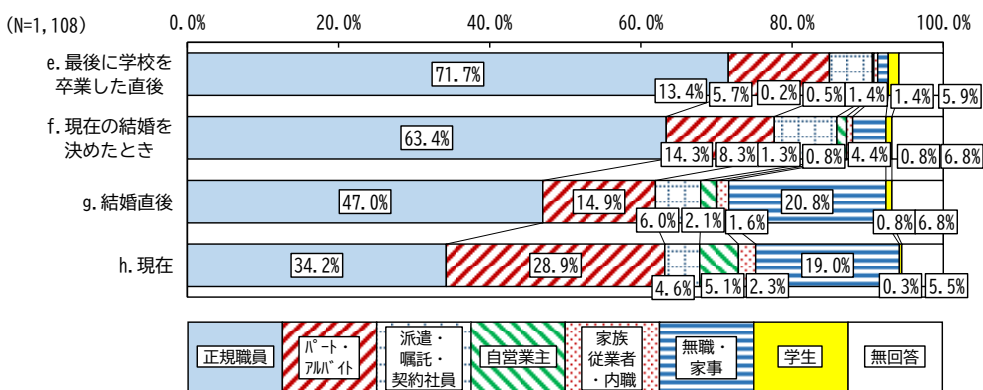
妻 就労率 75.1% (前回比較+10.1pt) 正規職員 34.2% (前回比較+10.6pt)

- 未就労の妻の約6割が働きたいと考えている。約9割がパート・アルバイトを希望しており、居住市町村内に職場があり、短時間勤務ができる仕事があることや休暇がとりにやすいことなどが条件となっている。

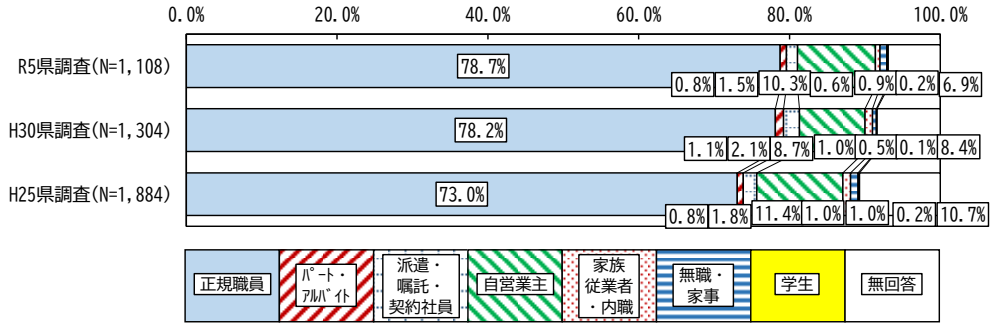
図表 時期別・就労状況（夫）



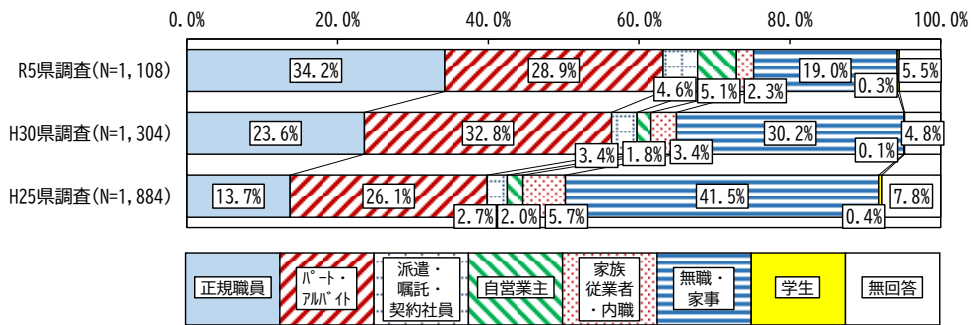
図表 時期別・就労状況（妻）



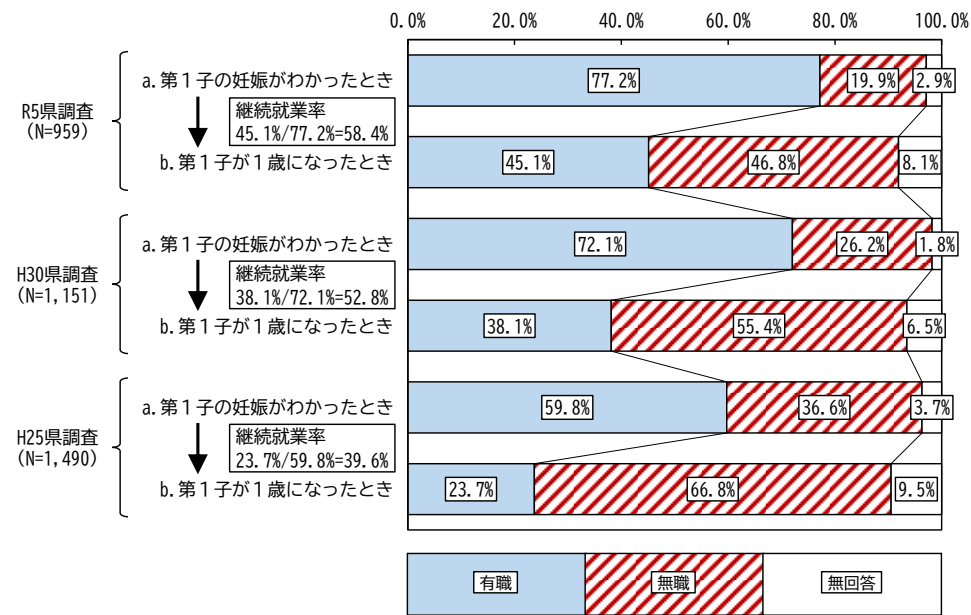
図表 現在の就労状況（夫）



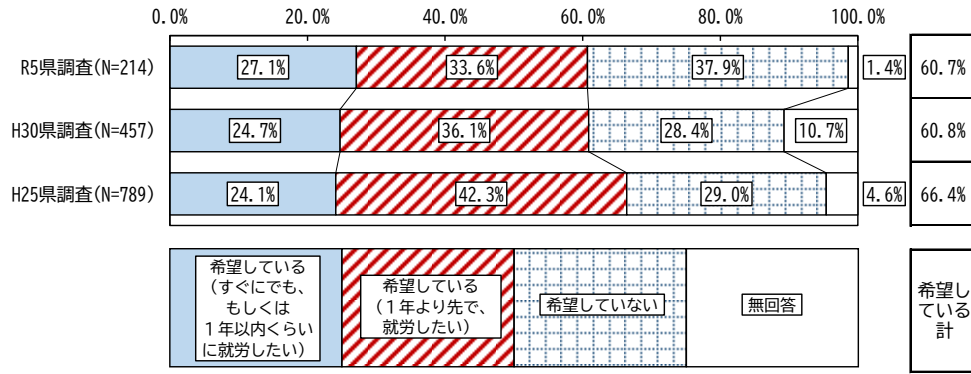
図表 現在の就労状況（妻）



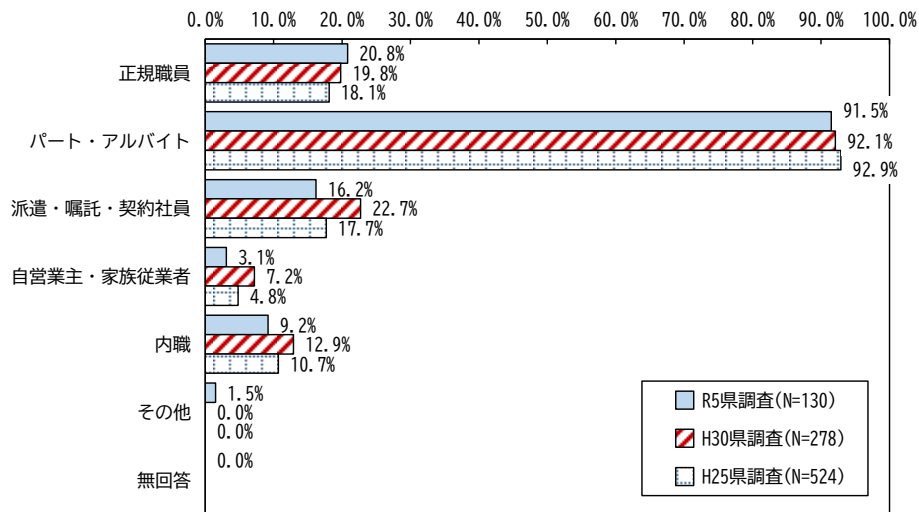
図表 第一子出産前後の妻の就労状況



図表 未就労の妻の就労意向

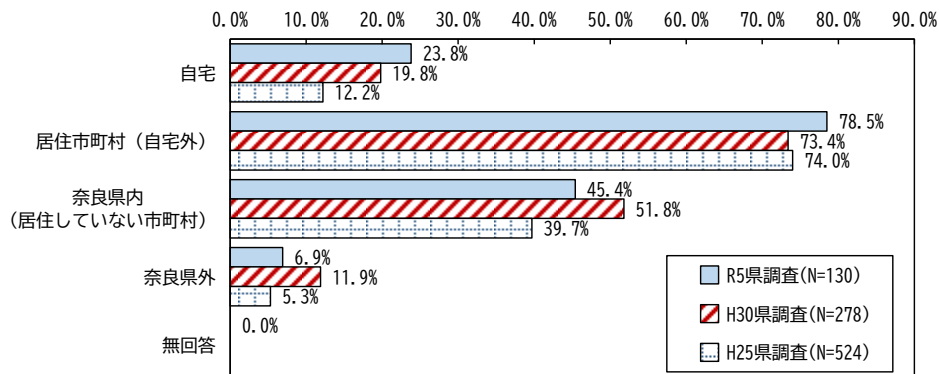


図表 希望就労形態



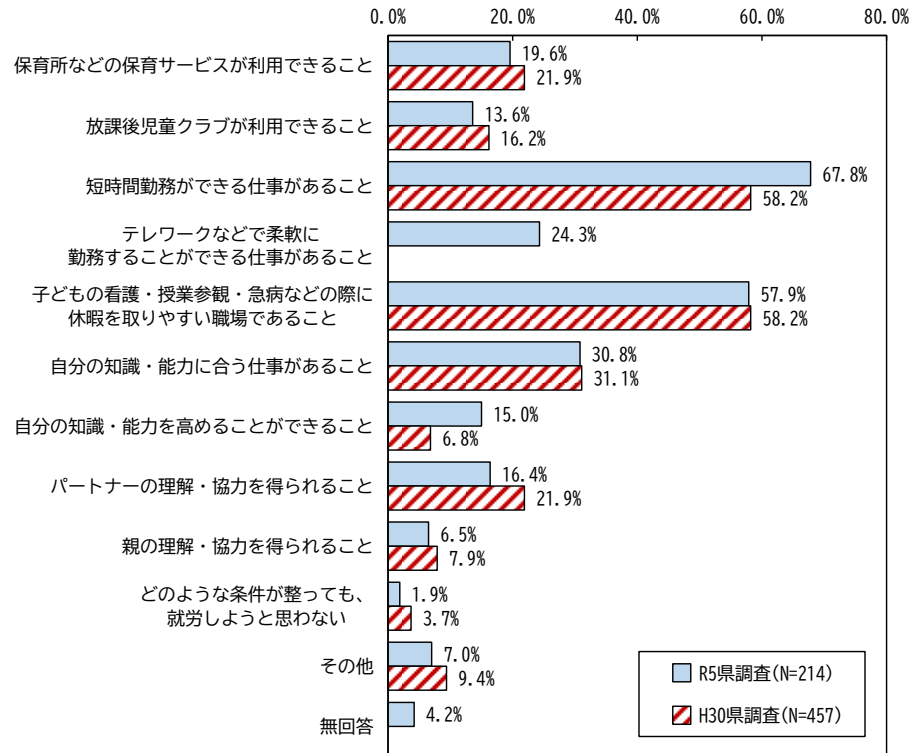
※H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

図表 希望勤務地



※H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

図表 就労条件



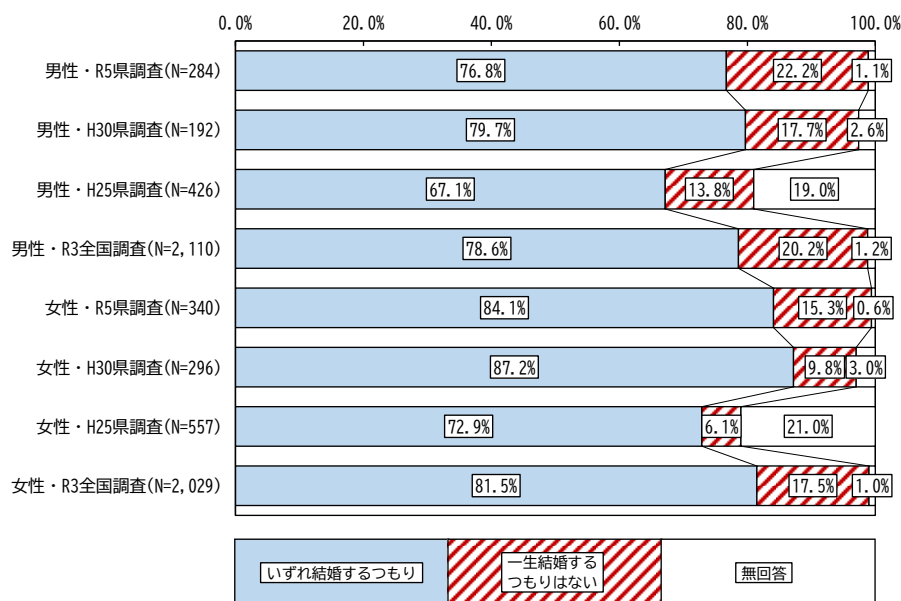
※「テレワークなどで柔軟に勤務することができる仕事があること」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査は無回答の掲載なし

6 独身者の結婚観

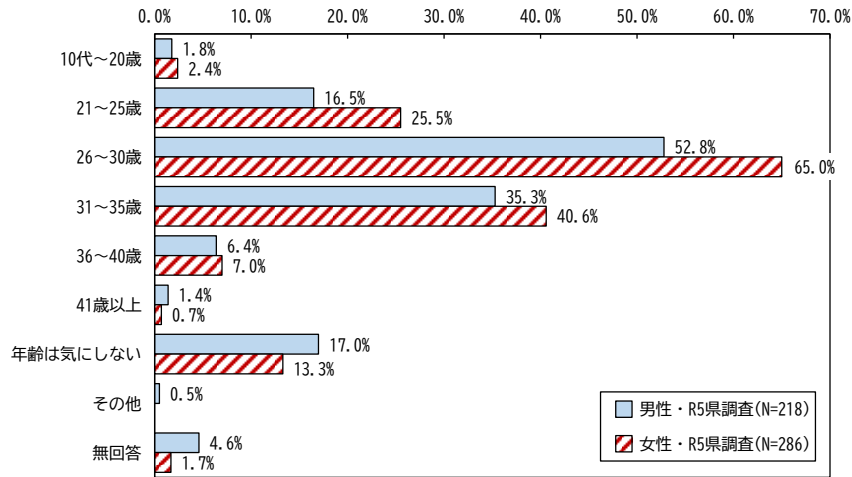
- 独身者は男女ともに「いずれ結婚するつもり」が8割程で、結婚に意欲がある割合が多数を占める。
- 希望結婚年齢は男女ともに26～30歳と考える割合が最も高いが、女性は20代や30代前半を希望する割合が男性より高く、希望結婚年齢に性差が生じている。
[参考：希望結婚年齢の割合]
R5 21～25歳 男性 16.5% 女性 25.5% 26～30歳 男性 52.8% 女性 65.0%
31～35歳 男性 35.3% 女性 40.6%
- 現在独身でいる理由は男女ともに「適当な相手にまだめぐり合わないから」だが、巡り合えない理由は「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない(いない)ため、出会いの機会がほとんどない」ことが挙げられている。男性では収入の不安も上位。
- 「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」と考える割合は男女とも減少している。特に女性の割合は50%を下回っている。
- 性別役割分担意識「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は男性15.2%、女性11.2%で、前回調査に比べ、男性11.7ポイント、女性19.3ポイントで大きく低下している。

図表 結婚意欲



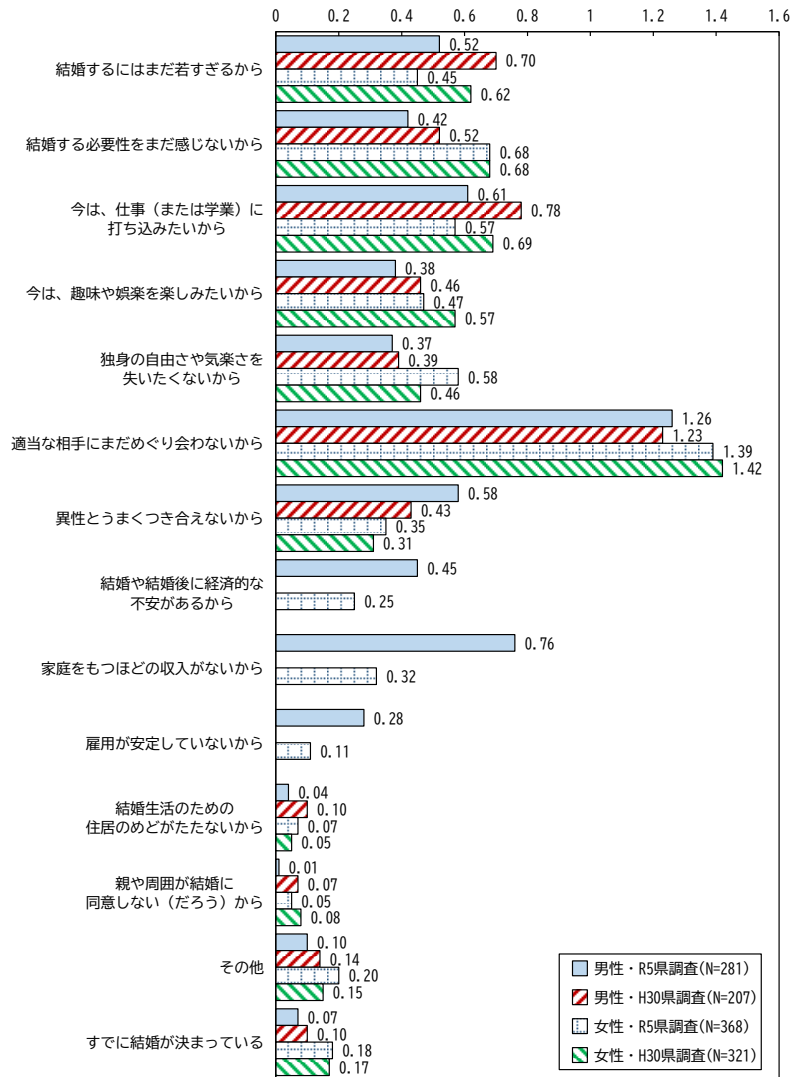
※集計対象：結婚経験のない20～39歳

図表 希望結婚年齢



※集計対象：結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20~39歳

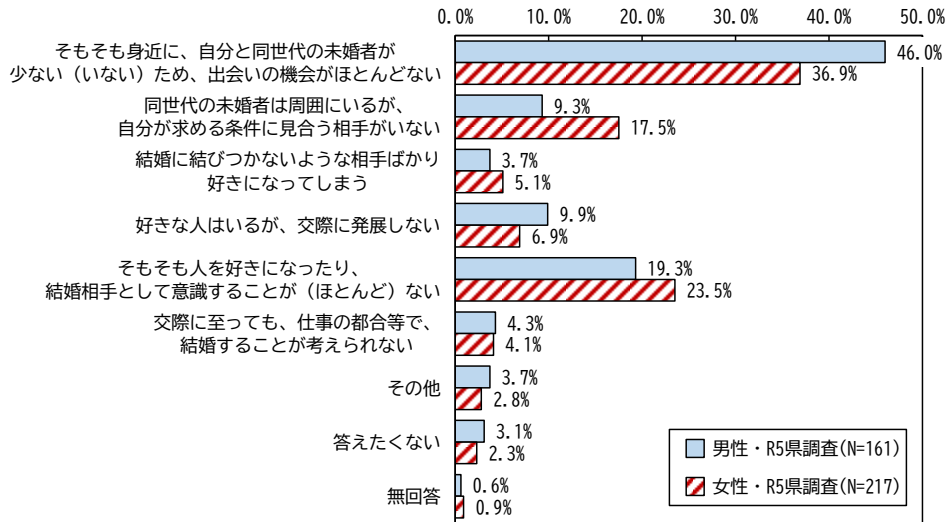
図表 現在独身でいる理由（あてはまる理由を3つ選択）



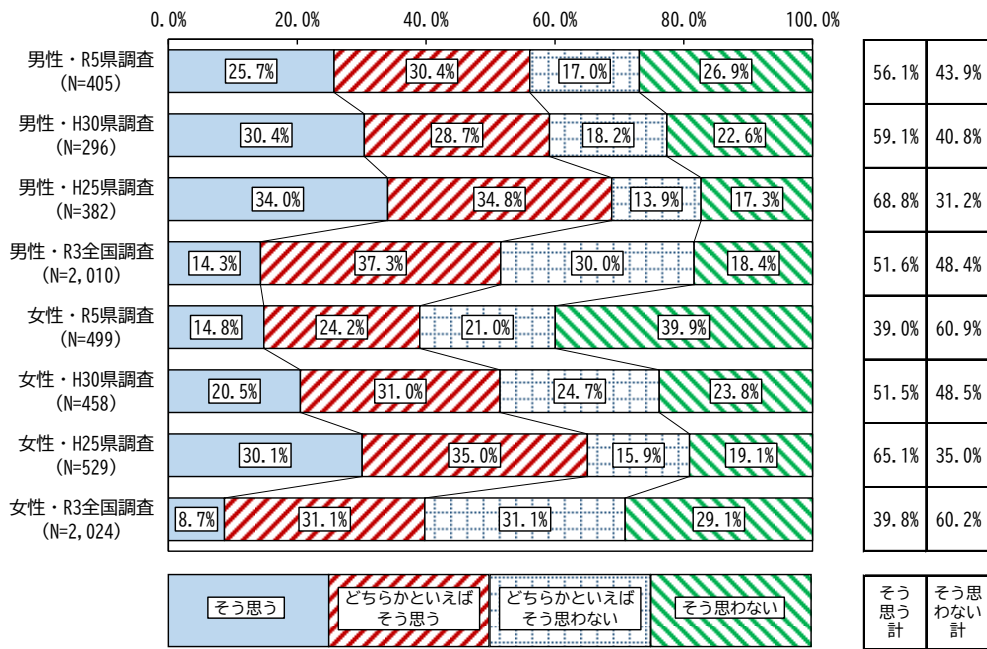
※結婚経験のない方について、

最大の理由=3点、第二の理由=2点、第三の理由=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

図表 適当な相手にめぐり会わない理由



図表 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

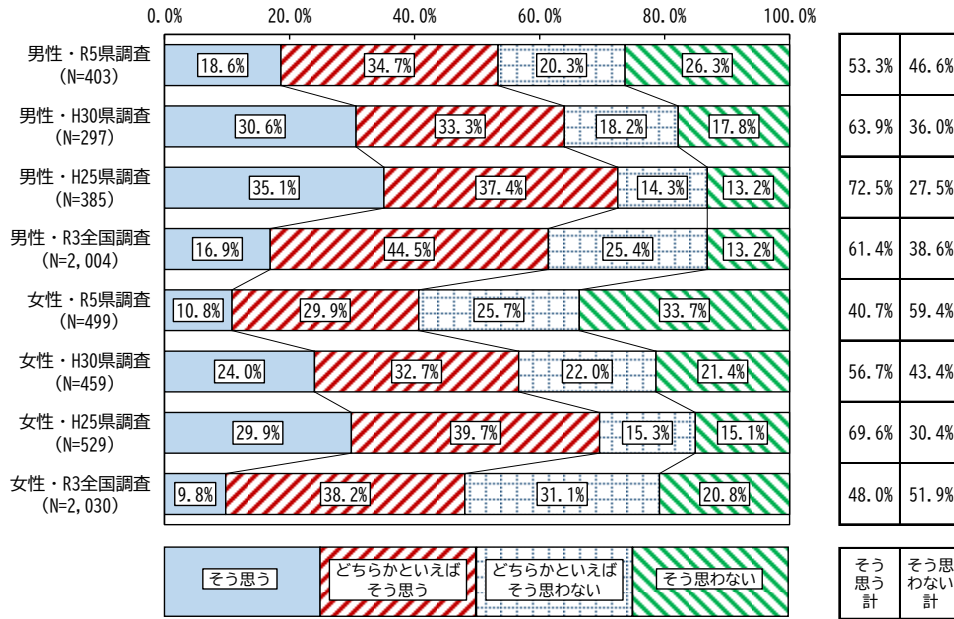


※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

図表 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

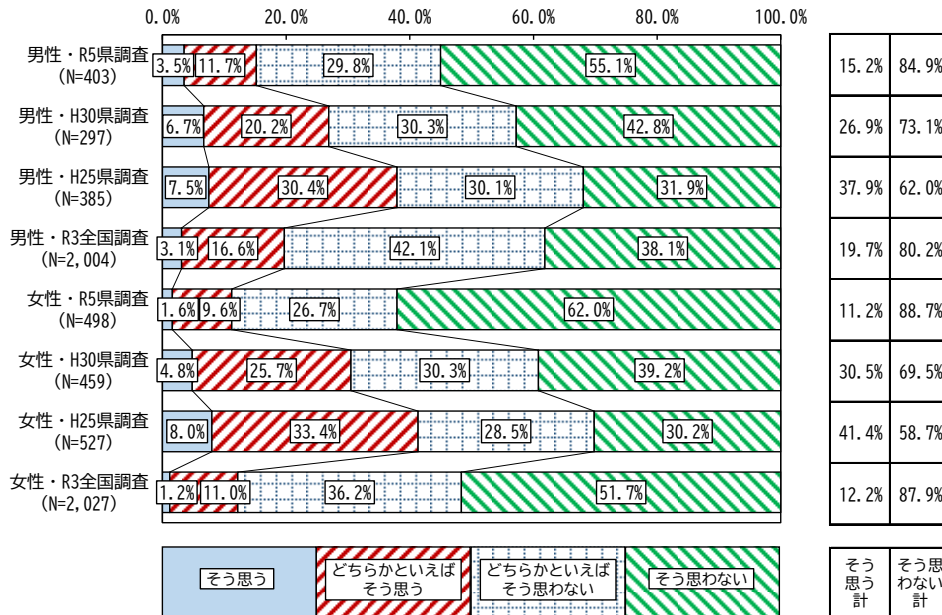


※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

図表 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

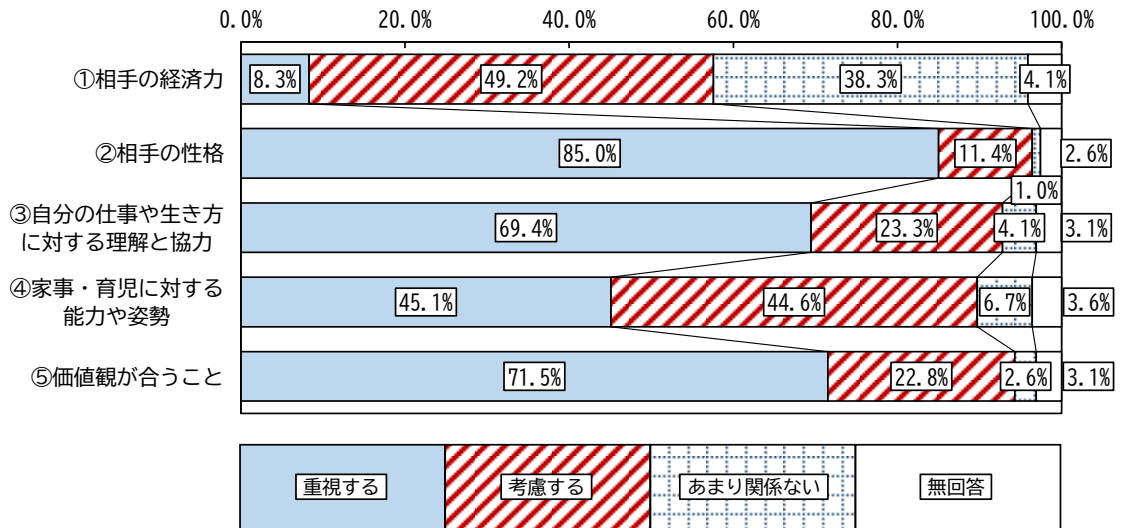


※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

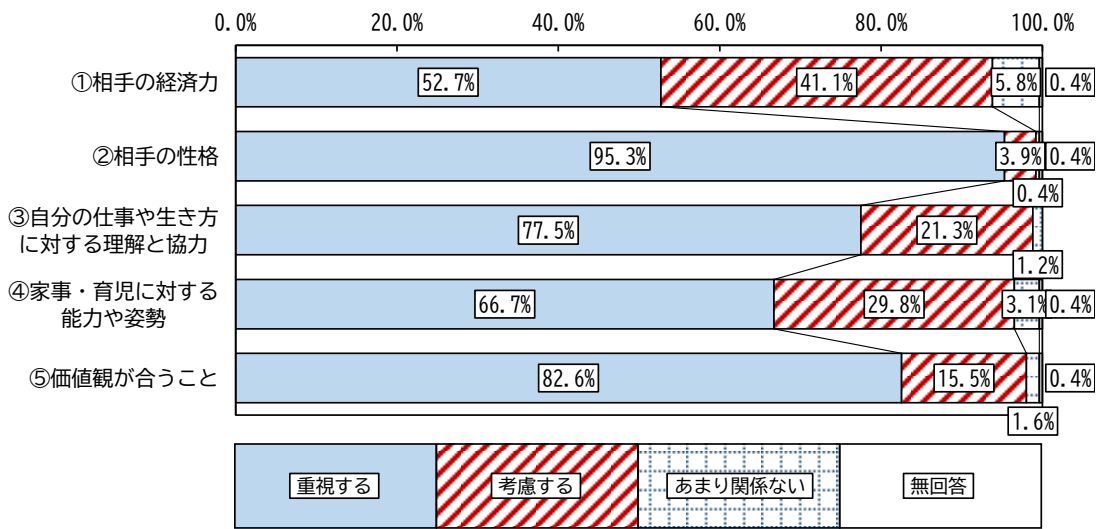
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

図表 結婚相手を決める際に重視すること【男性】



※集計対象：いずれ結婚するつもり18～34歳

図表 結婚相手を決める際に重視すること【女性】

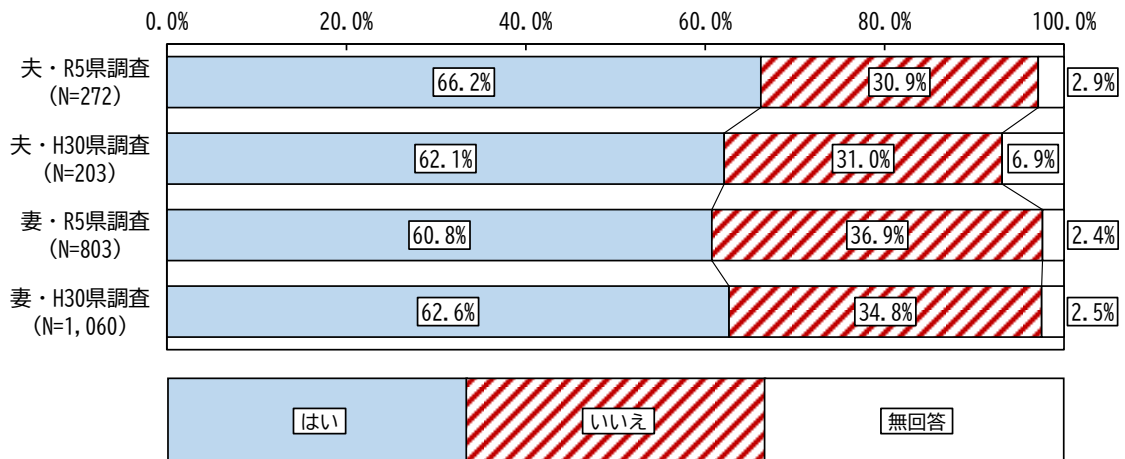


※集計対象：いずれ結婚するつもり18～34歳

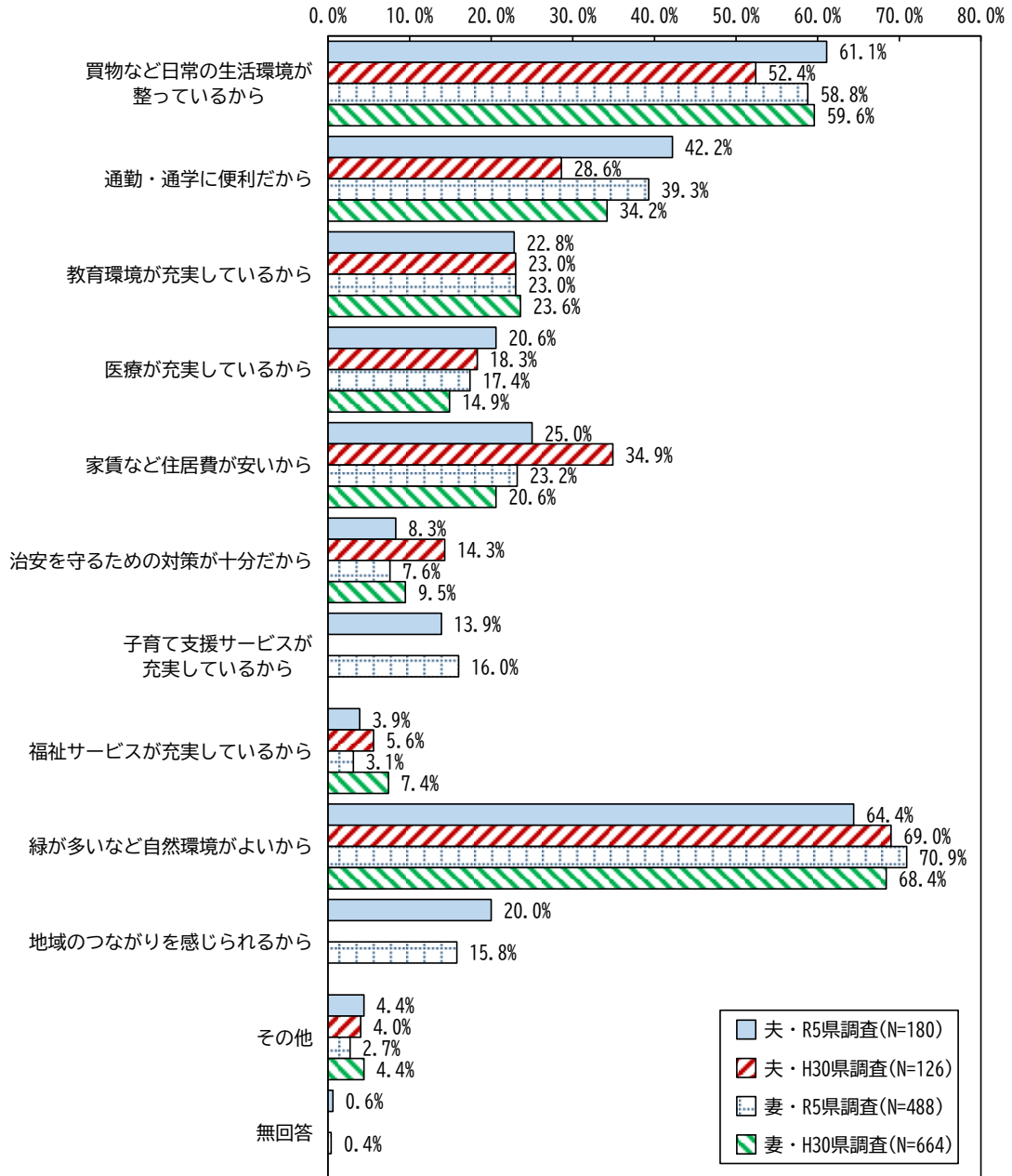
7 子育て施策

- 夫婦ともに奈良県の子育て環境を約6割が評価している。
- 評価理由は「緑が多いなど自然環境がよいから」「買物など日常の生活環境が整っているから」などが上位で、非評価者は「子育て支援サービスが充実していないから」などが理由。
- 奈良県の子育て施策は概ね前回調査より評価が上昇している。ただし、「所得の向上」や「男性の育児休業・休暇取得の推進」「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」に満足していない割合が8割以上に上る。
- 前回調査から男性の育児休業・休業をとった方がいいと思う割合は夫婦ともに 10 ポイント以上上昇しており、男性 65.1%、女性は 56.2%。
- 男性の育児休業・休業促進にあたり、「職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること」「育児休業・休業中の給与を維持する制度」「同僚職員への負担軽減」を求める割合は 5 割以上。

図表 奈良県は結婚して子どもを生ま育てやすいところか



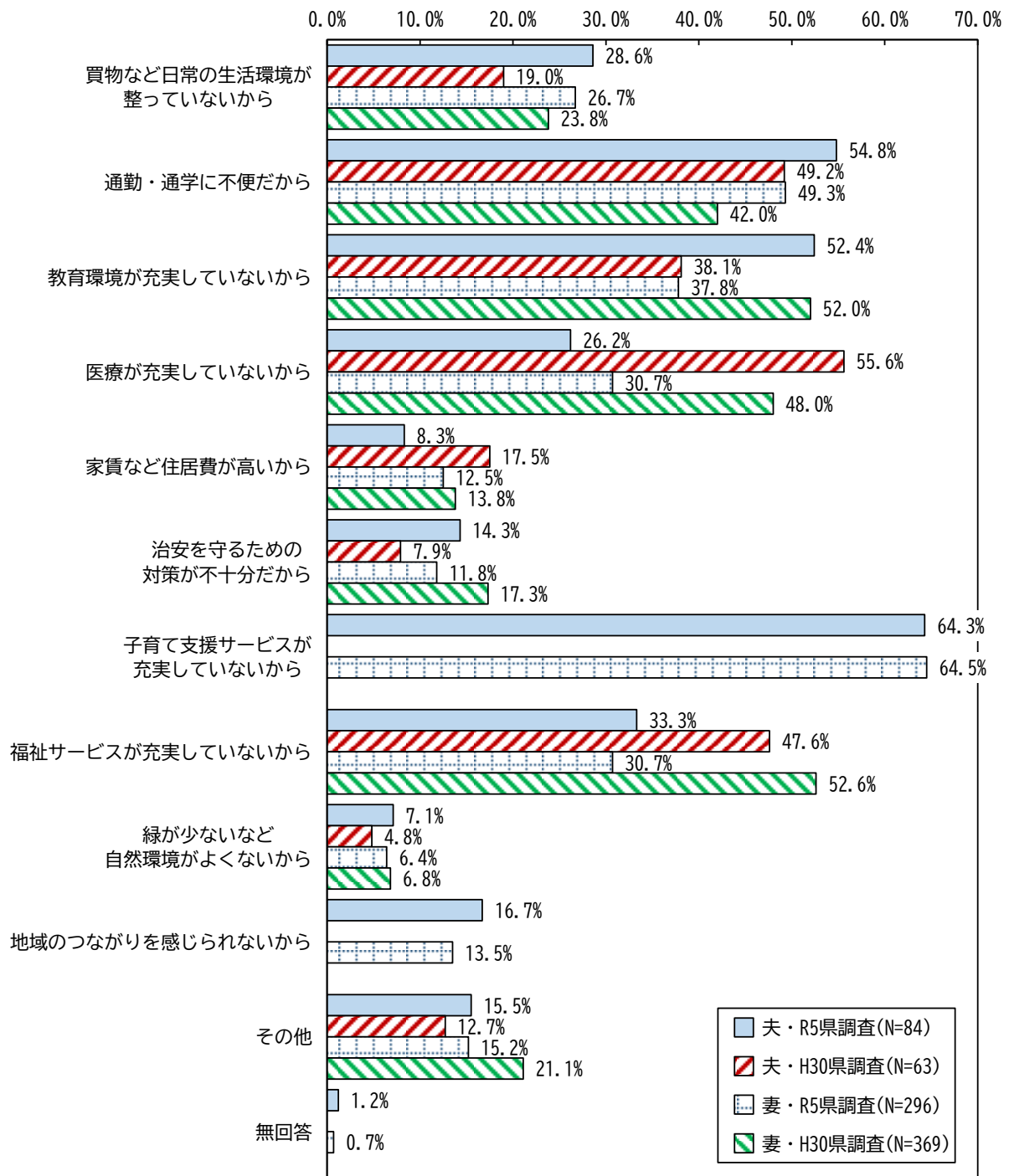
図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由



※ 「子育て支援サービスが充実しているから」「地域のつながりを感じられるから」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査では無回答の掲載なし

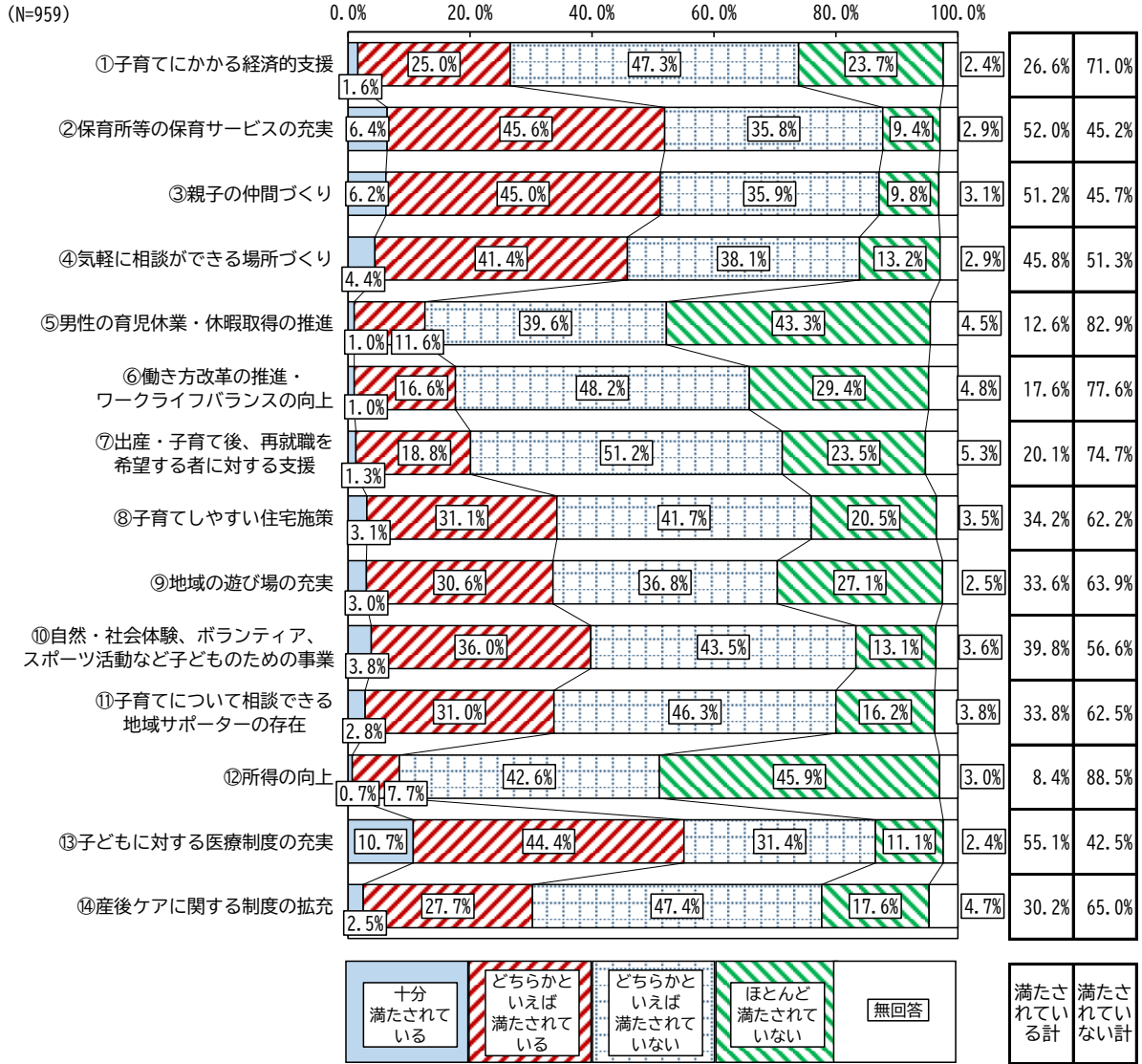
図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由



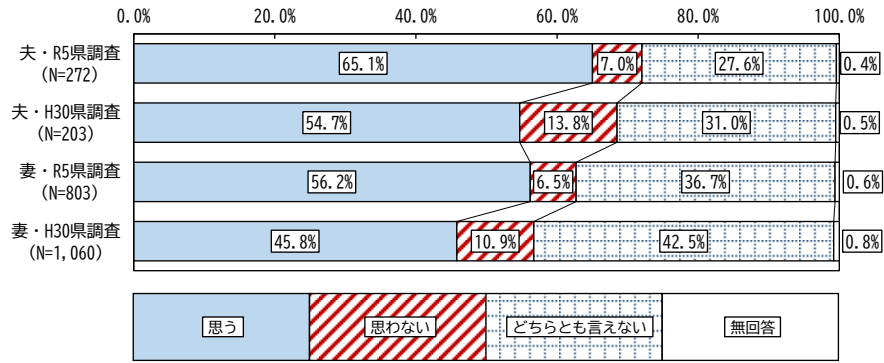
※「子育て支援サービスが充実していないから」「地域のつながりを感じられないから」は今回調査からの新規項目

※H30 県調査は無回答掲載なし

図表 子育て支援に関する満足度



図表 父親が育児休暇・休業をとることについての考え



図表 男性の仕事と子育ての両立可否別・男性が育児休暇を取得しやすくするために必要な施策

